

日本作業療法士協会 海外研修助成制度

実績報告書

訪問日程：2023年4月18日～25日

施設名：JenLo Farm (OTclinic of Lois Hickman)

所在地：5125 Ute Highway Longmont Colorado 80503

氏名：高橋 麻理

所属士会：宮城県

1. 施設訪問の内容

- ・ “Rocky Mountain Riding Therapy”でのホースセラピーを見学。作業療法士の案内にて、言語聴覚士によるホースセラピーの2セッションを見学し、ディスカッション
- ・ “JenLo Farm”にて作業療法士のセッションを見学
- ・ “Sunflower Farm”を作業療法士の案内で見学。“Sunflower Farm”は、様々な動物のいる Farm で行われている幼稚園とフリースクールで、幼稚園の1クラスを見学し、オーナーからフリースクールの様子も聞く
- ・ 作業療法士の案内で、Lyons (コロラド州の都市) の見学をする
- ・ Lavern M.Johnson Park (障害を持つ Mr.Johnson がつくった有名な公園) の見学
- ・ Bohn Park, Rocky Mountain BOTanic Gardens : スケートボードや BMX をできる Skatepark のある公園。川沿いには、様々な方が作ったアート作品が飾られていた。JenLo Farm を含むこの地域では、数年前に大洪水が起き、大変な災害に見舞われ、その追悼・復活の意味を込め、様々な方がこの地へアート作品を随時置いていくとのことだった
- ・ Lyons 市街地：音楽や美術作品に溢れる自然と融合した町。初めて出会う人々もフレンドリーに語らい合う

2. 施設訪問の成果

1) Lois Hickman.OTR からの話

(1)Lois Hickman.OTR の大まかな OT 歴・JenLo Farm の成り立ち

- ・ 障害を持つ子ども達へ音楽を用いて関わるボランティアを行っており、その後に OT の学びを始めた。OT の養成大学を卒業後、子どもの病院で働いた。分からないことが沢山あったため、OT の大学院へ行って学びを深め、病院へ戻った。屋外での OT が大切と感じ、関わっている子ども達を農場や山等、外へ連れ出した。ST や MT と共にラマの牧場へキャンプに行った。キャンプではマットにシェービングクリームを塗ってうつ伏せで滑ったり、ケーキを沢山並べて滑ったり、歌を歌いながらトウモロコシの皮剥きをしたり、楽しいことを沢山した。ニカラグアで、障害を持った子ども達が良い生活を

送れていないと聞き、他のセラピストと一緒に 12 年間程、年に 1 度、支援へ行っていた。海が近いのに、海を見たこともないというので、海へ連れて行った。病院を退職してから、小さな農場の土地が手に入り、そこへ住み、動物を飼い、フルーツの木等を育て（多くは、野鳥に餌をやり、その糞から生えた植物）、娘さんと共に JenLo Farm を作って、OT clinic を始めた。幼稚園や学校の先生達へ子どもの思いを伝えるワークショップも行ってきた。現在、ご自身は OT セッションを退き、農場を娘さんや他の OTR と共に維持し、2 名の OTR（がセッションを行っている）。

(2) Lois Hickman. OTR が大切に思うこと

- ・音楽はとても大切。初めは知っている単音の曲から始める。音楽にのってくると、自然と身体が動き、体軸が回旋し、中心線を超えてダンスをし始める。徐々に音を重ね、スピードの変化をつけていく。子どもがやるスピードに合わせて OTR も一緒に動き、歌い、楽器を鳴らす。そうすることで動きを引き出していける。そして、音楽は記憶に残る。その時の行動や楽しさと共に。そのため、重要である。キャンプで音楽療法士は、一人一人の名前とやったことを歌詞に入れて歌を作り、歌ってプレゼントをする。音楽そして、人の根底となる感覚は **Vibration** であると、ある時、気づいた
- ・OT をしていく中で気づいたことがある。手の機能よりも先に見る機能が発達する。基本となる、触覚・固有感覚・前庭感覚の機能が育ち、それと同時に見る機能も育つことで、目的物へ手を伸ばすことができるようになる。
- ・本人にとって目的や意味のあること（ストーリー）や、考えることを大切に、固有受容感覚・前庭感覚の統合等、各々のニーズに応じてベースを整えていくことが重要。上手く動くことが難しく、数字の好きな子には、多くのカラフルな数字マットを並べ、計算して 7 になるように、登ってジャンプするような活動を沢山した。押し合って遊び、全身の筋を使うこともあった。動物の世話や植物を育てるために一輪車を押すことも同様。ブランコで揺れている時にしっかりと止めることも大事。
- ・大人の人も、赤ちゃんの正常発達を順に行うことで、上手く動けるようになる。
- ・子どもが楽しいと思える本物の作業を用いた。肘、足の指、舌でお絵描きすることもあった。舌は身体の中心であり、良く見ながら行うことで、様々な効果が見られた。舌では特に、美味しい物を用いて行った。アイスクリームやバターも作った。ターザンに捕まって足でお絵描きすることもあった。
- ・以前、東京の素晴らしい療育センターを訪問した。スヌーズレン、バイブレーション、様々な機器が揃っていた。でも、欠けているものが 2 つあった。1 つは、イマジネーションを掻き立てるもの（例えば、おままごとセットのフライパン、キッチン）。もう 1 つは動物。動物との関わりでは全感覚と関わる。動物の餌や水の準備、掃除等、ケアする時も含めて。
- ・地球の至る所で環境破壊は進んでいる。私たちは地球に生まれ、地球で生活しているの

- だから、もっと地球に近づかなければならない。
- ・病院では、色んなスタッフがいるから良いけど、環境を作り出すのが大変。室内に、空気や水、土、起伏、岩、動植物...色々な地球上のものを似せて作り出さなければならぬのだから。それは大変な作業だった。ファームは簡単。でも、ファームの環境を維持するのは難しい。ファームを手にするのは大変だから、私はラッキーよ。農場で OTclinic を行う人は、私が始めるまで誰もいなかった。でも、JenLo Farm を始めて、見学者が来て、行い始めた OTR はアメリカ国内に数人いると思う。ファームでの OT は大切なので、しっかりと取り組む所が増えていくと良いと考える。連絡を取り合っていないので、カンファレンスをしたい。日本の OTR とも。
 - ・あらゆることを使って、壁を作らずに、広く全体を捉えて OT を行っていくことが大切。

(3) Lois Hickman.OTR が出会ってきた子どもたち・関わりについて

- ①ある男の子は、楽器を好んだ。いつも、OT 室へやってくると楽器を鳴らし、OTR がそれに合わせて楽器と一緒に鳴らしたり、歌ったり、ダンスしたりした。ブランコやトラランポリン等で、必要としている感覚も満たしていった。感覚的なことが満たされると、好きだった音楽遊びも「しない」と言い、自分の口を手で触れ、「話したい」と言った。セッションを初めて 3-4 ヶ月経った頃だった。求めている感覚が満たされると、「話したい」「考えたい」と思うようになる。
- ②ある男の子は、目に問題は無いけれど、沢山のことが見え過ぎて人や物を捉えられず、落ち着かない様子であった。周囲の視覚情報を隠して、OTR を背にスウィングに乗った。深い音のクジラソングをかけ、OTR がその低音のハミングをした。男の子は心臓の鼓動や発声の振動のする OTR の胸に背を近づけてきた。OTR は彼をホールドして前後に揺れた。クジラと一緒に乗るように。すると、男の子は手をロイスの喉に当てた。ローテーションしてロイスを見た。そして、完全に向き合うように回転してしっかりとロイスの目を見た。これは 1 回のセッションで起こったことである。過剰な情報を遮り、ベースとなる、本人にとって必要な感覚を提供した。その子に何か必要かを感じて、満たすことが大切。ただの感覚刺激ではなく、音楽を交え、その子にとって意味を持ちながら(ストーリーテリング)受け取ることで、注目して見れるようになった。
- ③賢い男の子。学校で友達と喧嘩していた。落ち着かない子。クッションマットにボールを入れてトンネルを入れたら入って行った。「昔々 洞穴の中に..」と OTR が物語を話し始めるとじっと聞き入った。狭い空間で圧迫されると落ち着き、話を聞く体勢となれた。そして、自分の気持ちを語り出した。TV で戦争の様子を見、悲しみや怒り、苦しさで心がいっぱいになっていた。それを語り終え、すっきりとした表情となった。
- ④ウサギを愛した、ある男の子がいた。うさぎが亡くなった時、そのことを OTR は男の子に隠していた。しかし、男の子はうさぎがどこにいるか訊き、亡くなったことを伝えた。すると、男の子は「セレモニーをしよう。」と言った。りんごの木の下にウサギを

埋めた。セレモニーの時、なんと、犬二匹とニワトリが行儀良くベンチに座り、セレモニーを行えた。OTをしているとミラクルが起こるのよ。

⑤落ち着きのない小学生。10 歳でも文字を書けなくて校長先生が困っていた。看板を作ることが好きだった。固有感覚刺激を得られる遊び・活動より何より、看板作りをした。初めは塗り絵のようにしていたが、「自分で書く」と言い出した。JenLoFarm の看板の多くは、彼が書いてくれ、今も用いている。

⑥ICU の早産の赤ちゃん。胎児期に、手・口の動きを経験できていなかった。まずは手にしっかりと触れて圧迫した。すると、その赤ちゃんは手を口へ持っていくようになった。

2) JenLo Farm での OT セッション

(1) 8 歳の女の子。診断名は LD、ADHD。注意の問題やバランスのとりにくさ、行為機能・左右の協調に問題が見られた。そのため、①ニワトリやダッグへの餌やり、②枯れ草を片手で持ちながら、剪定バサミで切り、刈る作業、③はしご等のサーキットをしながら、絵カードと頭文字 (abc ...) とを合わせ、石に書く活動を行っていた。

バランスをとることと、ヘビーワーク、周囲の動物達の様子を窺い、行動調整を要する活動、両手の協調、楽しみながら文字に触れる機会の提供をされ、問題の改善を進めていた。

(2) 4 歳の女の子。診断名は ADHD、行為機能障害。いつも、OT が提案した活動が嫌になってしまうため、本人の一番好きな活動であるトランポリンから始める。①トランポリンを跳びながら、絵・文字の書いてある大きなサイコロを転がし、出た内容の跳び方をしよう OT が提案。カエル跳びはできるが、片脚跳びは難しく、嫌になる。OT は困難にも立ち向かう心を育みたく、行うよう促してみる。しかし、拒否が続くため、母と手繋ぎでジャンプし、気持ちを切り替えて次の活動へと移る。②草をとってうさぎへあげる。その途中でウサギが後を向く。「もう、おしまいにしたいみたい。心地良くないのね。人も後を向く時は、もう終わりにしたいということなのよ。」と伝える。③ウサギの糞をシャベルでとって一輪車へ入れる。④枯草を剪定バサミで 10 回切って一輪車へ入れ、運ぶ。事前に 10 回と伝え、終わりが明確になることや、次に遊べることが分かることで頑張っていた。一輪車でホースも乗り越えるようなヘビーワークから姿勢の安定や、落ち着いた行動、操作のしやすさへ繋がるようにと行われていた。⑤外の遊具遊び。丸太渡りや滑り台、ブランコ。ブランコは木をキックする設定で行っていた。シーソーは、手でバーを「押して引いて」と伝えながら動きを誘導していた。バランスをとることや、運動を企画し、上手く体を用いることができるよう行われていた。遊び続けたがるが、カウントダウンすることで帰る気持ちとなれた。

- ・ 母は、「OTR が子どもと丁寧に関わるから落ち着いて過ごせている。」と話していた。
- ・ OTR が語っていたこと：「動物といることで自分自身をコントロールすることを学べ

る。自分を制御しなければ、動物を驚かせて逃げて行ってしまったりし、上手く関われないから。そして、思いやりの心をもてるようになる。」

- (3) 5歳の男の子。診断名は自閉症スペクトラム。つま先立ちで歩き、体性感覚の欲求が高い。Clinicへ来るとTシャツのタグが嫌と言い、OTRがハサミで根本から切る。①外の遊具で遊ぶ。滑り台を滑って数字パズルを合わせていく。以前は滑る際、背中が後ろに倒れていたが、1年かけて座って滑ることができるようになったとのことだった。シーソーに乗った後、ブランコに乗る。揺れに合わせて漕ぐことは難しく、脚を伸ばして乗り、OTRがその脚を押す。②鶏へ餌やりをし、産んだ卵をとる。③積み木積み・模倣（トンネル、階段）、④ペンで模写（○、横線、+、□、△、顔）⑤ハサミで直線切り⑥名前を書く⑦プットイン⑧コイン入れ⑨先端がケース状となっているハサミ型の道具を使い、玩具を挟みとる。

- ・ Home work：現在、ペンを前腕回内外中間位で握り持って書いている。そのため、塗り絵用紙を壁に貼り、尺側を壁につけて3指持ちで塗るよう母へ伝える。

- (4) 7歳の男の子。診断名は自閉症スペクトラム。筋緊張が低く、操作の難しさがある。また、興奮しやすく、コミュニケーションに難しさがある。ギフト的な面もある。行っていたこと：①丸太を渡り、ターザンブランコに乗る。②魚の餌やり（その周囲の大きな石の上を歩き、不安定な所でしゃがんで餌をやる）。③枯草・木の枝を剪定バサミで切る。④興奮を抑えることや、コミュニケーションを上手にとるための質問紙へ記入。Y字型の鉛筆を使用。⑤折り紙で飛行機作りを日本人と共に行う。⑥室内のハシゴブランコに乗る。登ることに苦戦しながらも挑戦する。

- (5) 8歳の男の子。診断名はLD。文字の読み書きが難しい。身体の使い方のぎこちなさもある。行っていたこと：①枯草を剪定ばさみで刈り取り、一輪車に載せて運ぶ。②小屋からアヒル・ガチョウの餌をカップにとってやりに行き、鶏の餌もやる。小屋を閉める時には片手で重たい扉を抑えながらも片方の手で2か所のカギを閉める必要があり、両手の協調を要す。そっと鶏に近づいて素早く両手で挟み込むように捕まえ、抱く。羽はスムーズで心地良い。また、鶏を驚かせないようにしながら卵を取る。アヒルの小さな小屋には、屈んで卵を取りに行く。③庭のハシゴ等をOTRと共に運び、サーキットを組み立てる。傾斜のついたハシゴを立位で渡る際には、バランスを崩しそうになるも、何とか渡る。板の中央に丸太を置き、渡る途中で傾く橋は上手に渡れる。動物の絵カードを得、その単語を石に書く。④日本人と共に折り紙で犬を折る。

3) Amanda Betzen.OTRから聞いたこと

【Amanda Betzen.OTRの略歴・学校事情等】

- ・ 以前は、コロラド州のある地区のschool OTをしていた。主に特別支援学校に所属しながら、一般の学校で担任から要請のあった場合にも行っていた。（子ども達は、なるべく地域の学校の普通級へ通う。しかし、休憩が多く必要な場合や、勉強が難しい場合には、

他のクラスへ行くことがある。行動障害が強い場合、特別支援学校様の所へ通う。自閉症スペクトラムやダウン症、知的障害等の場合、20歳まで学校へ行き、職業へつく準備をする。現在は、JenLo FarmでのOTの他、家族から個別に依頼を受けて、OTを行っている。はっきりとした障害のある子は、school OTがみる。School OTでは対応されにくい、ADHDや軽い自閉症スペクトラムの子ども達をJenLo Farmや個人で担当している。担当している子の多くは普通級へ通っている。その子ども達の様子を見に学校へ訪問すると先生は喜ぶことが多い（school OTが担当している場合は行かない。また、たまに先生が拒否することもあり、その場合も行かない。

【アメリカの医療制度】

- ・アメリカでは国民が個人で保険会社と契約をしている。開業している作業療法士は、レポートを保険会社へ提出し、不足があると戻されて再提出しなければならない。保険会社の種類によっては、リハビリテーションを受けられない。また、保険の契約をしていない家庭もある。そのような場合にも、保護者が支払えば、作業療法を受けられる。

【JenLo FarmでのOTについて】

- ・アメリカでスマホが普及してから、不安の強い子どもや、中心軸が定まらずに震えている子どもが増えている。
- ・自然環境では、様々な感覚を受け取り、感覚が統合されやすい。沢山の触覚、自然のにおいがある。目的的に自然な流れでヘビーワークや行為機能等が必要となり、子ども達は意欲的に取り組みやすい。特に、動物が好きな子が多いため、動物の世話等の関係する作業を意欲的にやろうとする。
- ・動物との関わりは、人との関わりよりもハードルが低く、練習となる。JenLo Farmにいる動物達の中では、ヤギに関わるのが、一番、ハードルが高い。ゆっくりと落ち着いて近づく必要があるから。成長した子は、ヤギとの関わりを勧めている。夕方の一番最後のセッションの子どもは、ヤギを小屋の中へ入れる仕事をお願いしている。
- ・牧場の作業には、色々な工程がある。（例：餌やりの時に餌小屋へ行く。小屋の鍵を開ける時には両手の協調が必要。蓋を開けて餌を適量取り入れる。動物の小屋を開けて入る。餌入れへ入れる。餌をばら撒く。）子どもに合わせて動物の種類や作業を提供している。
- ・自然環境の中では、子ども達は感覚の過敏さの問題にも打ち勝ちやすい。嗅覚や触覚の敏感な子はスモールステップで促していく。例えば、嗅覚の過敏性が高い子は、餌場へ入ることが難しいので、初めは餌場の外で待っていてもらい、OTRが取ってきて渡し、好きな動物へ餌をあげていた。でも、その子は、今では自分で餌小屋に行って、餌をすくえるようになった。また、触覚の過敏性が高く、砂利や草の上を歩くことが難しい子もいた。そのため、初めは外へ出ることも嫌がっていた。初めは、本人の好む前庭遊具を外で行うと楽しめ、徐々に外へ出ることが平気になった子もいた。
- ・子どもが抱えている問題を動物に見ることが出来る。例えば、良く喧嘩する子はニワト

リが喧嘩するのを見て学ぶ。夜に寝たがらない子には、動物を小屋に入れて寝せる作業をしてもらう。思春期で母が言うことを嫌がる女の子には、ガチョウのジョージがアヒル達を世話する様子を見てもらう。

4) 牧場の幼稚園・フリースクール (sunflower farm)

- ・ 様々な動物のいる大きな牧場を幼稚園・フリースクールとして用いていた。子ども達が、動物達の様子を見て体調の確認をし、柵・小屋の確認もしていた。そして、餌やりや掃除等を仲間達と協力して行っていた。また、アースデイにちなんだ学びや制作もしていた。
- ・ 学校に通いながら、ある曜日にサンフラワーファームへ通っている子どももいる。しかし、学校側は farm へ通うことを良く思っていない。

5) ホースセラピー (Rocky Mountain Riding Therapy)

- ・ Lois.OTR より：以前、ホースセラピーをしていた時には、乗馬前にブラッシングする際、歌を歌いながら、しゃがみ立ちをするよう促していた。
- ・ 乗馬をしながら、ST が子どもに必要な言語の訓練や困った時の対処方法、コミュニケーションの取り方の話合い、全身の身体づくりをしていた。
- ・ 1セッション目のお子さん；1 単語ずつ捉えやすくすることを狙いに、乗馬前、並べたマットを、1 枚ずつ踏み進む活動をしていた。姿勢が安定しやすいよう、馬に後ろ向きで乗ることもあった。馬の背に四つ這いで乗り、首を前後屈させ、STNR の統合を狙っていた。また、馬に乗りながら長いバーを持ち、風船を打つ活動をしており、ATNR の統合やスムーズな正中線交差を目的に行われていた。
- ・ 2 セッション目のお子さん；感情のコントロールが難しく、学校等で他者とのトラブルが多いお子さん。他のホースセラピーへは行きたがらないが、ここへは来たがる。タッピングすることで、感情のコントロールへ繋げていました。また、「少しの問題なら自分で解決し、友達に相談しよう。多くの問題なら大人へ相談しよう。」と対処法を伝えていました。

6) まとめ

15 年程前に Lois Hickman.OTR が執筆した文章を読み、非常に感銘を受け、想像しながら自然や農場での支援を行ってきました。本格的に行う前に自分が行っている支援の方向性が誤っていないか確認したく、また、より良い支援を行えるよう、実際に見に行くことを決めました。今回の研修で、似た考えをもつ OT や ST、教師と出会うことができ、考えが合っていることを確認でき、また、更に大切なことを沢山学ぶことができました。特に Lois.OTR からは、壁を作らずに広く全体を捉えることや、環境や自分の持ち得る全てのあらゆることを用いること、想像力を働かせて本物の作業を用いることの大切さ等を学び、

私の中での作業療法観が更に広がりました。今回得たことを自分の中へ大切に記憶し、日々、考え、更に解釈を深め、支援に活かしていきたいと思います。また、情報を必要とする方へ今回の経験を伝え、より多くの方々の支援に繋がればと思います。貴重な機会をくださり、誠にありがとうございました。

